

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 vol. 31



SBIホールディングス 代表取締役執行役員 CEO

北尾吉孝さん

きたお・よしたか

幼少から親しんだ『論語』の教え

洪沢栄一氏が説いた『道徳経済合一説』の... 実践を趣旨とし、SBI大学院大学を設立した... 幼少から親しんだ『論語』の教え

今なお、今こそ、輝く 英哲たちが残した徳育の書

「たがいに新しい発見と自己反省があります... 心に残った片言隻句を引ながら読む... 英哲たちが残した徳育の書

夢や志を仲間と語り切磋琢磨した

大学卒業後、野村證券に入社し、幹部候補としてエリートコースを歩んだ... 夢や志を仲間と語り切磋琢磨した



1951年兵庫県生まれ。74年慶應義塾大学経済学部卒。同年野村證券入社。78年ケンブリッジ大学経済学部卒。89年野村證券取締役(英国勤務)。91年野村企業情報取締役。92年野村証券取締役。99年ソフトバンク・ファイナンス代表取締役社長。2000年ソフトバンク・インベストメント代表取締役社長。2003年ソフトバンク・インベストメント代表取締役CEO。05年7月から現職。

「今やるべきことは、株式市場が再浮揚した時に最大利益を確保できるように... 夢や志を仲間と語り切磋琢磨した

「『ビジョナリーカンパニー』は、森先生が40代前半に天王寺師範学校の『修身科』で講義した... ビジネスの成功条件は

北尾吉孝さんがすすめる5冊

『論語』(岩波文庫) 金谷治・訳注 中国古典の『四書』のひとつで、紀元前552~479年に生きた孔子とその弟子たちの言行録。512の短文を全20編で構成。日常生活から政治まで多彩な論題を通じ、君子と小人の違い、人としての生き方、「仁」「義」「礼」などの徳目を伝える。

『三国志』全8巻(講談社) 吉川英治・著 約2000年前、中国後漢末期から三国時代にかけての興亡史。一青年劉備が関羽、張飛と義勇を結び、世を救わんと黄巾賊や政治腐敗に立ち向かう。「三顧の礼」で軍師に迎えた諸葛孔明の活躍、曹操との攻防など壮大な群雄割拠の物語。

『三國志』(1) 吉川英治・著

『いかに生くべきか 東洋倫理概論』(致知出版社) 安岡正篤・著 著者が開いた私塾「金鐘学院」の東洋思想の教本として、32歳の時に発行。早中期、中期、晩年期に分け、それぞれの眼目となるべき倫理を、「立尚」「敬義」「立命」と題し、東洋や西洋の古典や偉人の名言を引用しながら教示。

『いかに生くべきか』 著者が開いた私塾「金鐘学院」の東洋思想の教本として、32歳の時に発行。早中期、中期、晩年期に分け、それぞれの眼目となるべき倫理を、「立尚」「敬義」「立命」と題し、東洋や西洋の古典や偉人の名言を引用しながら教示。

『修身教授録 現代に蘇る人間学の要諦』(致知出版社) 森信三・著 『国民教育の師父』と号された著者が、天王寺師範学校「修身科」で教師を志す生徒に向けて行った全79講を収録。生徒の手で書き取られた講義の内容から、著者の教育に対する熱意や教室の臨場感が伝わる。人としての原理原則を説く一冊。

『ビジョナリーカンパニー』(日経BP社) ジェームズ・C・コリンズ/ジュリアー・I・ポラス・著 山岡洋一・訳 時代を超え、際立った存在であり続ける企業「ビジョナリーカンパニー」の源泉を解明した米国のロングセラー。徹底した調査とライバル企業との比較から、従来の経営神話を看破。普遍的な経営理念の価値について考察する。

仕事ができる社員、できない社員、できない社員

会社に「必要とされる人」になれ 吉越浩一郎 著

私が経営者として絶対に手放せなかった社員とは... 「勝ち負け」にたつて... 「結果がすべて」を考へる人... 迷ったときに、厳しさを要する人... 敵を敵のままにしておかない人... 締め切りを徹底し守る人... 「ここぞの場面」にめっぽう強い人... 女性社員を味方につける人... etc.

「努力」に満足する二流、「成果」に満足する一流... この一言に、ガツンと来ました。自分に足りなかったものが見えてきたと思います。(34歳・男性・社員)



吉越浩一郎

三笠書房 千代田区飯田橋3-3-1 http://www.mikasashobo.co.jp 最新刊 『20代でやっておきたい37のこと』 川北義則 著 37刷 27万部!! 続々重版中! 『20代、30代、40代...からの人生を決定づける本!』 『NHK爆問学問 世界が大きく変わる言葉』 武田信長 著 『NHK爆問学問 世界が大きく変わる言葉』 小林正観 著 『NHK爆問学問 世界が大きく変わる言葉』 中川和宏 著 『NHK爆問学問 世界が大きく変わる言葉』

大学時代 自分のために絶対やっておきたいこと 千田琢哉 著